

日本の水に関わる若手を結ぶプラットフォームの構築

Japan National Young Water Professionals (Japan-YWP)

1. はじめに、Japan-YWPのご紹介

我々「Japan National Young Water Professionals (Japan-YWP)」は、International Water Association (IWA) 日本国内委員会の下部組織として2010年3月5日に設立されました。日本水道協会や水環境学会らと密接な連携をとりながら、上下水道・水環境に関連する分野の学術的研究・知識の普及、水環境保全への積極的な貢献を目的とした若手中心の組織です。

現在、会員数は464名（民間企業：44.4%、官公庁・自治体：19.2%、教育・研究機関：35.7%）で、会員の平均年齢は34歳となっています。



写真1 Japan-YWP総会にて

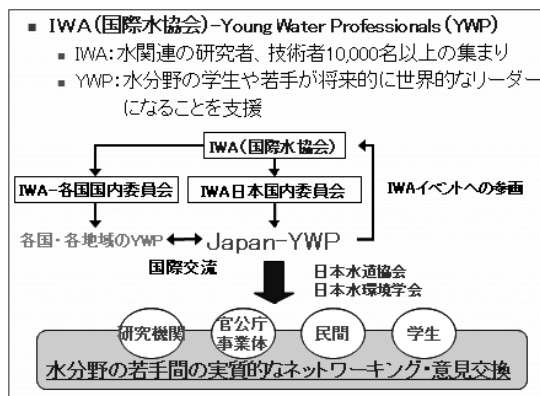


図1 Japan-YWPの位置付け

2. 水業界が抱える課題と、設立理念

現代の上下水道は、都市を支える重要なインフラとし

て、長い年月をかけて築き上げられてきました。その中で近年は、これまで日本や世界の上下水道事業を担ってきたベテラン職員が大量に退職する時期を迎えています。また、国際的には、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成を目指していく中で、生活の根幹となる水問題の解決に向けて国内外で多くの活動が取り組まれており、人材育成や技術継承の重要性が再認識されるようになりました。

これからの水業界を背負っていく若手は、過去に経験したことがない課題と直面していくことになります。老朽化したインフラの大規模な更新をはじめ、激甚化する災害、地球規模で進む気候変動、日本における人口減少あるいは世界的な人口増加などの社会環境の変化といった課題に対応し、持続的に運営可能なシステムを構築していかなければなりません。

水業界で活躍するためには、技術的な専門知識はもちろんのこと、経営、法律、市民活動並びに世界情勢などに関して最新の情報を継続的にキャッチアップしていく必要があり、様々な分野の専門家と連携しながら、グローバルかつ複雑な課題を解決していくことが求められています。

そこでJapan-YWPは、「未来の水業界をリードする人材群の育成」と「水業界におけるイノベーションの促進」を目的として、広く「水」に関連する若手同士が集い、上下水道・水環境に関わる技術や知識にとどまらず幅広い分野についての情報を交換できるプラットフォームを構築するため活動しています。

3. 水関連セミナーの開催

Japan-YWPでは、セミナーやワークショップ、勉強会などのイベントを開催し、産官学、専門分野、職種の垣根を越えて、「水」関連の若手同士が交流する場を創設しています。概ね月に1回のペースで、ほとんどのイベントを無料で開催し、学生からベテランまで幅広い世代の会員にご参加頂いています。

表 2018 年以降の活動実績

開催日	イベント名称	開催地
2018年 1月25日	(開催協力) 第8回JWRC水道講座「途上国における日本の水専門家の役割」 アジア工科大学院 環境資源開発学部長 Dr.C.Visvanathan 様	東京都
1月28日	IWA-YWP Water-Wise Innovation Challenge!! ～ Mission for Phnom Penh Cambodia～ 「SDGsについて」 国連大学副学長、東京大学生産技術研究所 教授 沖 大幹 様 「カンボジア諸国における水環境」 東京大学大学院 教授 滝沢 智 様 「カンボジアの水環境」 カンボジア王国公共事業運輸省 総副局長 VONG Pisith 様 「SDGs達成に向けた国際協力」 北九州市上下水道局 海外事業係長 川崎 孝之 様	京都府
3月14日	ワークショップ「テクノロジーマッピングー水処理技術の向かう先はー」	北海道
3月15日	Japan-YWPセミナー「発明が社会実装されるまで」	北海道
5月26日	ワークショップ「水×SDGsー変革のための道しるべを探すー」	東京都
6月27日	第8回イブニングセミナー「産業副産物由来の地盤材料の有効利用に向けて」	東京都
6月30日	第1回「水×SDGs」勉強会	東京都
7月10日	(開催協力) 第9回JWRC水道講座 「埼玉県企業局の国際協力事業」 埼玉県企業局総務課 荒舘 俊 様 「海外の水道PPP事情」 EY新日本有限責任監査法人 原 崇志 様	東京都
7月14日	Japan-YWP第7回国際シンポジウムーキャリアアップに向けた留学経験の共有ー	愛媛県
8月18日	第2回「水×SDGs」勉強会	東京都
9月17日	Japan-YWP workshop「Post SDGs Future Vision Call」	東京都
9月17日	(開催協力) IWA世界会議サイドイベント「水の未来を考える高校生ワークショップ」	東京都
9月17日	IWA-YWP Social Night	東京都
10月 8日	第3回「水×SDGs」勉強会 ～ SDGsから見る、水道事業者の目標・指標の現状～	東京都
10月19日	(開催協力) 第10回JWRC水道講座 「大阪府北部の地震における水道被害とその対応」 大阪広域水道企業団 廣村 治 様 「近年の自然災害から考える水道の災害レジリエント」 名古屋大学減災連携研究センター 准教授 平山 修久 様	大阪府
11月 3日	ウィークエンドセミナー ～水業界の将来を考える～ 特別講演1:水道技術経営パートナーズ株式会社 代表取締役社長 山口 岳夫 様 特別講演2:東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授 滝沢 智 様	東京都
11月28日	第9回イブニングセミナー「フランスにおける財政制度とPPP等について」	東京都
2019年 1月19日	Japan-YWP第9回総会兼セミナー 「下水道行政の最近の動向について」 国土交通省水管理・国土保全局下水道部 下水道事業調整官 石井 宏幸 様 「変換過程を考慮した化学物質管理を目指して」 国立保健医療科学院生活環境研究部 上席主任研究官 越後 信哉 様 「すべての人に水と衛生環境を届けるために ～NGOの活動～」 特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン 事務局長 高橋 郁 様	東京都
2月 6日	(開催協力) 第11回JWRC水道講座 「水道におけるこれからの水質管理～農薬を例に～」 関東学院大学 准教授 鎌田 素之 様 「紫外線消毒の動向と展望」 東京大学先端科学技術研究センター 准教授 小熊 久美子 様	東京都
2月23日	Water Loop共催ワークショップ「水の未来はどこへ向かうか ～2050年に求める世界～」	京都府
3月 7日	Japan-YWPセミナー「山梨の火山と湧水・地下水」	山梨県
3月23日	「水×SDGs」ワーキンググループ キックオフ・ワークショップ「水の未来予想2030」	東京都

Japan-YWPの活動で意識するポイントは、幅広く「水」を共通項とする交流の場であることと、「若手の持つ発想の柔軟さ」を崩さず自由に議論できる場とすることです。Japan-YWPが関わる主なイベントをご紹介します。

(1) 総会兼セミナー

Japan-YWPの活動報告の場である総会の後、セミナーの部では各分野で活躍されている豪華な講演者をお招きし、ご講演を頂きます。技術的な話題だけでなく、政策、経営、NGO活動、教育広報（プロジェクトWETなど）に関わる話題や市民団体の活動紹介など、毎回多彩なテーマを用意し、参加者が水に関する視野を広げられるよう工夫しています。

セミナー終了後は、ネットワーキングセッションと題して、参加者同士が交流する場を設けています。産官学それぞれの立場で活躍する社会人らのほか、水業界を志す学生も参加する熱気あふれるセッションとなります。幅広い分野を学ぶことで自らの視野を広げ、かつ横のつながりを広げる、Japan-YWPの醍醐味を感じられるイベントといえます。



写真2 セミナーの部



写真3 ネットワーキングセッションの様子

(2) JWRC水道講座（開催協力）

公益財団法人 水道技術研究センター（JWRC）が主催するJWRC水道講座では、若手を代表してJapan-YWPが開催協力しています。水道講座では、水道が抱える様々な課題について、国や水道事業者がどのように考え対応してきたか、今まで培ってきた経験やHOTな話題を、具体例を交えながら提供しています。

開催回によって異なるテーマを設定し、最新の浄水処理技術などのテクニカルな話題や、水道広域化や民間活用、災害対応といった水道事業の計画や運営に関わる内容、国際協力に関する内容まで、水道に関して幅広く取り上げています。

講演後は、講演者と参加者による意見交換の場を設けています。水道事業者、民間企業、研究機関といった異なる立場のプロフェッショナル達が議論することで、それぞれが持つニーズ・シーズを理解するのに役立つとともに、業務におけるヒントを得る機会にもなっています。



写真4 JWRC水道講座

(3) ウィークエンドセミナー

ウィークエンドセミナーは、学生を強く意識したイベントです。主に大学生、大学院生を対象として、水業界の抱える課題と展望について俯瞰し、将来を考える機会を設けることを目的としています。

前半の講演の部では、次の世代を担う若手が将来目指すべきところについて、水業界における著名な人物から提言を頂きます。後半の部では、Japan-YWPに所属する若手社会人達が所属団体や企業ごとにブースを準備し、学生と社会人が自由に談話できるセッションを設けています。水業界の仕事や研究内容について知ってもらい、一緒に水業界の将来を議論することで、上下水道や水環境を学ぶ学生に水業界を意識してもらうこ

とができ、まだわずかですがその成果が就職活動で見られてきています。



写真5 学生と社会人の交流

4. SDGsにコミットした活動

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」には、水に関わる目標が多く存在します。Goal6では「世界中の全ての人々が安全な飲料水と衛生的なトイレにアクセスできる」ことが目標とされ、2030年までに達成が求められています。また、SDGsには「誰一人取り残さない」世界の実現が掲げられており、国際活動のみならず、国内においてもSDGsの観点から見直す必要があると考えます。

Japan-YWPでは、メンバーが有する多様な専門的知識と、若手ならではの視点を活かし、SDGsの達成に貢献する活動に取り組んでいます。

(1) アイデア・コンペティションの開催

近年急速に発展しているアジア都市部では、悪化する水環境への迅速な対応が求められています。国際的な活動の一環として、国際シンポジウム「Water-Wise Innovation Challenge!! ～Mission for Phnom Penh Cambodia～」を2018年1月28日に京都大学百周年時計台記念館で開催しました。開催に当たっては、新たな視点でアイデアを生み出す一助となるべく、発展途上国都市部（カンボジア王国プノンペン都）の持続可能な水環境を創出するアイデアを募集しました。

本シンポジウムは、特別講演、ポスター発表、コンペティションの三部構成で行い、国内外から約80人の方々にご参加頂きました。コンペティションは事前選考（全16件）を通過した6チーム（高校生2チーム、大学生3チーム、企業若手1チーム）により行われ、プノンペ

ン都の現状に即した持続可能な水循環の構築に貢献できるアイデアについて口頭発表が行われました。いずれのアイデアも革新的かつオリジナリティにあふれ、熱いプレゼンテーションが行われました。そして最優秀賞として、高校生2チームが選ばれました。

カンボジア政府関係者が参加される中で、日本の若手がアイデアを伝え、議論を交わすことができたことは、大変貴重な経験でした。高校生という我々よりも若い世代が真剣に取り組んでいる姿を肌で感じることができたことは、我々に元気を与えてくれる最高の機会であったと思います。



写真6 コンペティションの様子



写真7 コンペティションの表彰式にて

(2) 「水×SDGs」ワーキンググループの発足

安全な飲料水と衛生的なトイレへのアクセスについては、世界の中で日本は高水準の位置付けにあると言えます。しかし、SDGsの「誰一人取り残さない」世界の実現を考えた場合、国内の状況についても改めて見直していく必要があると考えます。

そこで、水道事業が目指すビジョンや目的をSDGsの視点から見直し、我々若手が提案することを目指し、

「水×SDGs」ワーキンググループを発足しました。これが意味するところは、Japan-YWPの中で共通の問題意識を持つ若手メンバーが何かを成し遂げ、それを若手からの提案としてアウトプットするという次のステップへ向かうための活動を開始したということです。

水に関わるSDGsへの理解を深めていくにあたり、まずはじめにワークショップを開催し、幅広くSDGsについて知ってもらう機会を作りました。その後、勉強会形式により実施し、「水×SDGs」、そして水の未来に焦点を当て、興味がある、何かを成し遂げたいというメンバーと共に多くの議論を重ねてきました。そして1年間の活動を経て、ついにワーキンググループを設置し、2019年3月23日のワークショップを皮切りに、本格的な活動が開始しました。今後1年間かけて成果をまとめることを目標に積極的に活動しており、Japan-YWPの新たな取り組みとして期待されます。

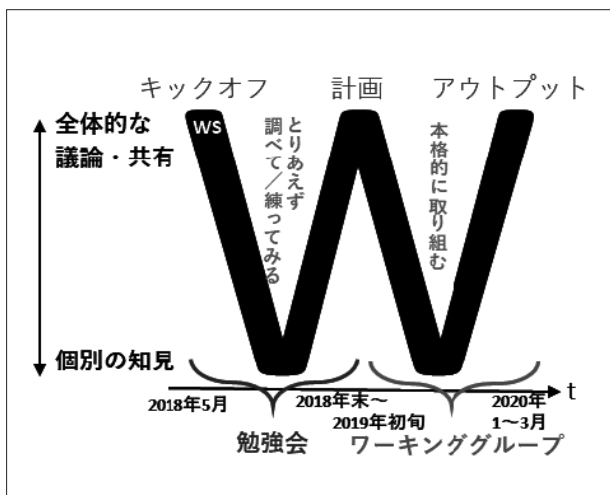


図2 「水×SDGs」活動プラン



写真8 「水×SDGs」勉強会の様子

(3) Post SDGs Future Vision Call

SDGsという世界共通目標に対して、どのように活動に関わっていくか、この視点は大変重要なものです。しかし、若手においてはさらにその先を考えていく必要があります。なぜならば、SDGsは2030年までの目標であり、あと11年しか残っていません。イノベーションや新たな仕組みを導入していく場合、準備期間を踏まえると、今から未来について考えていく必要があります。

そこで、2018年9月17日、IWA世界会議において、ワークショップ「Post SDGs Future Vision Call」をJapan-YWPとして開催しました。

IWA世界会議は、世界中の水専門家（政治家、技術者、研究者など）が集結する世界最大の水会議です。その中で、「Post SDGs」をキーワードとし、日本の若手から世界に発信できたことは大きな意義があったと考えています。

ワークショップでは、“若手ならではの”というコンセプトで、アンケートアプリケーションを用いて、スマートフォンなどから投稿された様々な意見をリアルタイムで集計、共有できるように工夫をしました。アジアだけでなくアフリカ、ヨーロッパなど様々な地域からも参加して頂き、約40名の参加者により活発な討議が交わされました。



写真9 Post SDGs Future Vision Callの様子



写真10 IWA世界会議にて、各国のYWPらと

5. 広報活動

Japan-YWPを世間に広く知ってもらい、活動を拡大していくために、ホームページやSNSの活用、ニュースレターの発行、大学や学会会場などにおけるポスター掲示といった広報活動を行っています。

会員数は順調に伸びてきており、8年間でおよそ240名増えました。水関連の業界誌、新聞社からの取材や執筆の依頼も増えており、これまで行ってきた広報活動が実を結んできていると感じています。



写真11 Japan-YWPホームページ

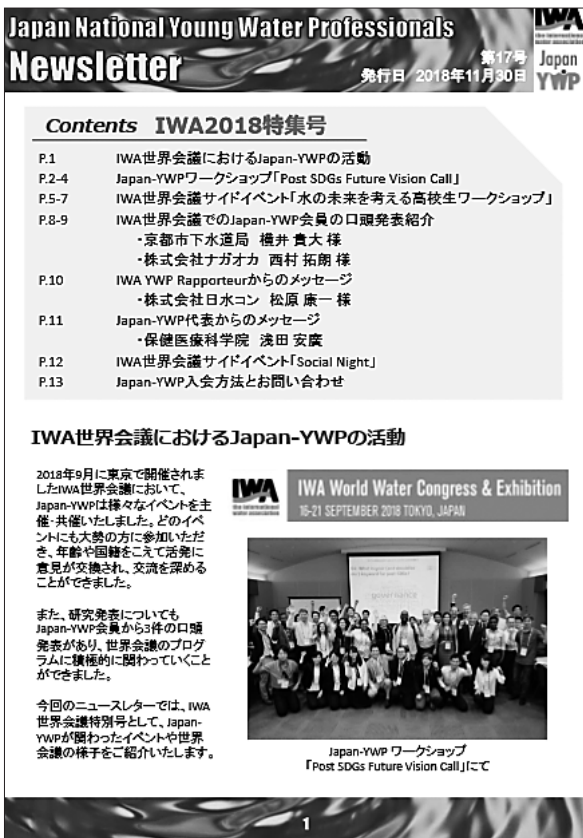


写真12 ニュースレター



写真13 広報ポスター

6. 今後の展望

2020年でJapan-YWPが発足して10年となります。この10年間は、いわゆる“若手を結ぶプラットフォームの構築”を目指して直向きに走り続けた日々でした。そして、その成果が現在の活動の多さに大きく現れています。

Japan-YWPの活動は絶やさずに続けていけるよう、仕組み作りが大切であると考えます。そして次の10年、Japan-YWPとしての位置付けをきちんと整理した上で、日本全国、そしてアジアのYWPと共に活動を盛り上げていく必要があり、水の若手の中心となれるように一步一步進めていきます。

Japan National Young Water Professionals
(Japan-YWP)